

INTERVIEW

外国人材を受け入れている農家へのインタビュー



令和4年9月

No.1

有限会社 重元園芸

経営概要

所在地：熊本県宇土市

従業員：役員4名 社員8名 パート8名
外国人材8名
(特定技能3名 技能実習生5名)

栽培品目：キュウリ2.5ha ネギ2ha
いちご38a ロメインレタス1ha
米6.5ha



重元園芸は、熊本県の中央部に位置する宇土市で、約40年前からキュウリを栽培する園芸農家。2014年にGLOBAL・GAPを取得。高地の山都町にも圃場を持ちキュウリの周年出荷体制を確立。また近年ではいちご観光農園や加工品販売も手がけ積極的に経営規模の拡大を図っている。

外国人材の受け入れについて

➢ 受け入れのきっかけを教えてください。

10年以上前に知人の紹介もあり労働力確保の観点から受け入れを開始しました。当初は中国人の受け入れから始まり、現在はベトナム人が7名、カンボジア人が1名の計8名を受け入れています。

また、特定技能外国人のうち2名は即戦力としての役割や後輩の指導を期待し、当社で働いていた技能実習生を採用しました。

➢ 外国人材はどのような業務をしていますか。

主に我が社の主力商品のキュウリやネギの栽培管理、収穫、出荷作業などに従事してもらっています。

受け入れた外国人材の先輩から後輩への栽培技術も上手く引き継ぐことができおり、現在では外国人は日本人社員同様に欠かせない存在になっています。



出荷作業場の様子



主力商品のキュウリ

受け入れ農家としての取組(生活環境・コミュニケーション)

➤ 外国人材の生活環境を教えてください。

会社に寮があり、現在受け入れている外国人8名全員が寮に住んでいます(家賃12,000円/月)。

なお、本人の希望で寮以外のアパート等に住む場合には家賃の補助も行っています。

休日は、週1日で交替で休むようにしています。

外国人が会社や地域で馴染めるように以前は花見、祭り、運動会等への参加をしていましたが、最近はコロナの関係もあり参加できていません。

今後の状況を見ながら再度、参加をできればと思っています。



圃場での作業の様子

➤ 受け入れるにあたって心掛けていることはありますか。

受け入れ農家として、地域の方も含め周りから信用されるようになることが大事だと伝えていきます。

そのためには、地域の人への挨拶や交流、母国では当たり前のことでも日本ではやってはいけないことがあるなどのルールの違いに気を付けてもらうよう指導しています。

➤ 外国人材からの相談等はどのように対応していますか。

相談苦情については、直接話しを聞くこともありますが、重要な話しの場合は、内容に聞き取り間違いが起こらないように監理団体や登録支援機関の通訳を介して、正確な情報を得て対応するようにしています。

また、契約更新のタイミングを捉えて個別に面談を行うなどコミュニケーションを図っています。

今後の展開

➤ 今後の展開や取組について教えてください。

主力であるキュウリやネギの規模・販路拡大や米の裏作で新たな露地野菜の導入などやりたいことはたくさんありますが、今年で3作目になるいちご観光農園に最も力を入れていきたいと思っています。

いちご観光農園の集客増加により人材も必要になることから、求人を出した際には数ある農家の中から就農希望者に選ばれる会社になれるよう今後も努力していきます。



いちご観光農園入り口